



SOLUTIONS

概要

●技術的課題：

7台あった従来のメーリングリスト・サーバーを1つのシステムに統合し、社内のコミュニケーション・インフラを強化する。

●ソリューション：

二重化した新メーリングリスト・サーバーとストレージ・システムをプロセードのファブリック・スイッチで接続したSANを導入

●成果：

- ・メーリングリストの管理性が大幅に向上
- ・メーリングリスト・サーバーの速度と信頼性が高まった

東日本電信電話株式会社（NTT東日本）法人営業本部では、社内のメール・システムを更新する際に、ストレージ・システムにSANを採用したメーリングリスト・サーバーを新規に採用しました。これにより、メーリングリストの管理性、信頼性が大幅に向上しました。

NTT東日本がメール・システムを再構築し メーリングリスト・サーバーにSANを採用

東日本電信電話株式会社（NTT東日本）法人営業本部は、大企業、官公庁、公共機関、学校を対象に、さまざまなシステム・ソリューションを提供する同社の主要事業部署の1つです。

法人営業本部は、IP・ブロードバンド時代の事業環境の変化に対応し、企業ユーザーに価値のあるサービスを提供することを目的として、2001年12月に組織の再編成を行いました。現在、システム・インテグレーションを含めたトータル・ソリューションをユーザー・ニーズに合わせて提供する「ソリューション第一営業部」、通信ネットワーク中心のソリューションを提供する「ソリューション第二営業部」、電子政府、電子自治体、教育分野のITソリューションを全国的に展開する「ナショナルビジネス推進部」、データセンターを活用したプラットフォーム・ビジネス、高速光ネットワーク向け製品の開発、営業を担当する「ビジネスインテグレーション営業部」、情報流通ビジネスモデルの開発などを担当する「ブロードバンドビジネス部」、システム設計支援やユーザーのネットワーク監視を行う「サービスマネジメント部」によって構成されています。NTT東日本各支店と密に連携し、営業・技術支援を行う

のも、法人営業本部の重要な業務内容です。

社内コミュニケーションの インフラを再構築

NTT東日本法人営業本部は2002年3月、部署内のシステム構築に取り組みました。特に、社内のメール・システムを再構築し、コミュニケーション・インフラを整備することが大きな課題でした。

従来のメール・システムは、2001年12月の組織変更以前に構築されたもので、27台のメール・サーバーで構成されていました。法人営業本部には約2500人の従業員が在籍しており、部署間の人事異動が頻繁に行われています。従来のメール・システムでは、異動のたびにメール・アカウントの再設定を行わなければならないなど、管理性に大きな問題がありました。

また、メール・サーバーのほかに、2000以上ものメーリングリストが7台のサーバーに散在していたことも、メール・システムの管理性の悪さに拍車をかけていました。

 **NTT東日本**

 **BROCADE**

メーリングリスト・サーバーの ストレージにSANを採用

そこでNTT東日本法人営業本部では、7台あったメーリングリスト・サーバーを1つのシステムに統合する作業に着手しました。

新しいメーリングリスト・サーバーは、サン・マイクロシステムズの「Sun Enterprise 280R」を二重化構成にしたシステムです。最大の特徴は、システムのストレージにSANを採用した点。メーリングリスト・サーバーは、ブロードのエンタープライズ・ファブリック・スイッチ「SilkWorm 2400」を介し、日立製作所のストレージ・システム「SANRISE」に接続されています。ファイバー・チャンネル（FC）もSilkWorm 2400を含め二重化されているので、高い可用性が実現されています。

ストレージのディスク容量は400GB。SANを採用したストレージ・システムとしては少ない容量ですが、約2000のメーリングリストをこなすシステムとしては十分な容量です。なお、Sun Enterprise 280Rにはオペレーティング・システムの保護を目的としてバックアップ用テープ・ストレージが接続されていますが、このテープ・ストレージをSANに統合するのは現在検討中だそうです。

メール・アカウントの管理方法が変わり 管理者とユーザーの双方にメリット

新しいメーリングリストのシステムでは、何よりもメール・リストのアカウント管理作業

が大幅に改善されました。

もちろん、SANの導入により、メール・サーバーへのアクセス・スピードが改善され、信頼性が高まったことは見逃せません。中でも、リーズナブルな価格を実現しているブロードのファブリック・スイッチを採用したことで、SAN導入のコストを削減できたと言います。

メーリングリスト・サーバーを含めた新しいメール・システムは、導入決定からわずか1カ月で構築、実運用が開始されました。数カ月間の移行期間を経て、まもなく新システムに完全に移行する予定です。

将来のストレージ統合に向けて ファイル・サーバーにもSANを

今回、SANを導入したのはメーリングリストのシステムのみですが、SANは将来のストレージ統合にも対応できる十分な拡張性を備えています。メーリングリスト・サーバー以外のメール・サーバーのストレージ統合は、今後の課題ということです。

また、法人営業本部では現在、ファイル・サーバーにNASを採用していますが、ウイルス対策を含めたセキュリティーの面、ファイル転送プロトコルの面などで制限が多く、管理しにくいという不満を抱えているとのこと。NTT東日本法人営業本部では今後、このファイル・サーバーをSANへ移行する可能性を探りたいと考えています。

